

組手A級男子無差別級の見所

(ヘッドギア無し フルコンタクト・テコンドー・ルール)

八幡直明やや優勢、追うベテランの倉田剛志 パワーの寺田皓成、少年部生え抜きの伊藤岳陽に注目

本大会の看板種目は「2018年度フルコンタクト・テコンドー王者」を決定するA級男子組手無差別級である。

本種目の選抜者は9名。

倉田剛志 (千葉柏跆拳道クラブ)

八幡直明 (東京中野跆拳道クラブ)

中澤 友 (大阪弁天町跆拳道クラブ)

寺田皓成 (神奈川大学横浜校体育会跆拳道部)

西岡 健 (東京渋谷跆拳道クラブ)

秀崎康隆 (福岡筑紫野跆拳道クラブ)

高田憲利 (岡山鏡野跆拳道クラブ)

辻 陽介 (愛知大府跆拳道クラブ)

伊藤岳陽 (名古屋天白跆拳道クラブ)

河明生会長によれば

「総見での仕上がりを見る限り、八幡直明が優勢。

誰と対戦しても組手が安定しており、負けない組手を構築しつつある。

問題は一本勝ちのための決め技のキレ。

八幡を追うのが、ベテランの倉田剛志。

40歳まじかとは思えない筋力と88kgの体重から放たれる重い蹴りは脅威。

問題は性格のやさしさ。

勝負所で、野獣が獲物を仕留めるような荒々しさが欲しい」

河会長が注目するのが、寺田皓成と伊藤岳陽。

「寺田と伊藤は、将来の全日本チャンピオン候補」と予言されている。

とくに注目されているのが、少年部出身（小2入門）ではじめてA級男子組手に選ばれた伊藤岳陽。伊藤は、本年3月、国立愛知教育大学にも現役合格した文武両道の青年蹴士。

「少年部からようやく勇気のある門人が表れた」と感心されている。

ノー・ヘッドギアのフルコンタクト・テコンドーも初挑戦。

しかも格闘技の殿堂・後楽園ホールのリングである。10代のフレッシュな活躍を期待したい。



優勝目指して全力を尽くします！



昨年は気負いすぎました。今年は自分がやりたい組手ができたらいいなと思ってます。



全力で優勝を獲りに行きます。



自分の力を精一杯出し切って頑張りたいと思います。



初戦から全力で戦えるよう気張ります！



がんばります。



今年も出場させてもらえる事に感謝をし、
良い経験をさせてもらい、
今度のテコンドーに活かせる大会にします。



組手の試合に復帰して二年目になりました。
日々の稽古や大会への参加で過去の自分を超越
心技体の充実を実感しています。
今の自分を早く後楽園ホールでぶつけたいと
思います。



今回初めて、A級の組手に出場するので全力で楽しんで
最後まで悔いなくやりきれるように頑張ります。